

令和5年度学校評議員に係る諸報告について（報告）

I 学校評議員(学校関係者評価者)に意見を求めた事項及び学校評議員の主な意見

事項	学習指導
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な生徒が在籍している中、少人数授業の特色を生かし、個々の生徒に寄り添ったきめ細かな学習指導をされている。一人でも多くの生徒が自ら学びたいと意欲を持てる学習指導を引き続きお願いしたい。
事項	生徒指導
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の状況、家族構成、経済等生徒の背景はまさに人それぞれで、価値観や考え方も大きく異なる。そうした中での指導はとても大変かと思う。 ・中学生のコーディネーターをしたとき、「就職したとき、上手くコミュニケーションをとれるか心配」と述べる生徒が多かった。今後も「ソーシャルスキル」の育成に継続して取り組んで行く必要があると感じる。 ・チャレンジをするために自己期待感が必要と思うが、それを支えるための自己肯定感や自己信頼感を積み重ねるための周囲からの声かけが学校という環境であるからこそ、生徒自身の力で動き出せることにつながると感じる。
事項	進路指導
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次から進路見学会やセミナーなどを行い、生徒に長期的な視点を持たせながら進路決定につなげる取組みは大変評価できる。また、進路決定後も早期離職を防ぐため、学習会や講話などを行っている点も、生徒の特性を理解した上での取組みで、進路指導の充実が図られていると思う。 ・インターシップが再開できたことはよかったが、参加人数が少ないのは残念である。期待感と義務感を持ちながら、その時々タイミングで意思表示をしていると思うが、ぜひ期待感を高めてあげられるような関わりやイメージを持てるような情報を提供すると良いと感じる。
事項	特色ある学校
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に活動し、楽しく企画し参加する工夫が学校行事の中で感じられる。地域が田尻さくら高校の取組みに関心を持つようになってきている。 ・学校の存在自体が特色あり、開校以来設立の意義を教職員の方が理解し取り組んでいる。そこからさらに特色のある学校づくりを目指していることが大変素晴らしい。保護者の方にも、もう一歩理解してもらえると良いと感じる。
事項	防災教育
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・隣接する保育園の避難訓練を合同で実施することが、地域との連携のみならず、他人を思いやる気持ちや、コミュニケーション力の向上の一助にもなる取組みだと思う。 ・防災ボランティアなど、生徒にとって次の一歩のチャレンジや成長につながる機会だと思うので、様々な活動をぜひ続けてほしい。

2 上記1を踏まえて、学校運営の改善に取り組んだ（取り組む予定の）事例及び成果（期待される成果）

<p>事例</p>	<p>①学習指導要領をもとに授業改善を組織的に取り組んでいく。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、本校の特色とも言える少人数授業・T T・ICT活用をベースに、引き続き校内における生徒の学習活動の充実を図り、基礎力向上へつなげる実践を重ねていく予定である。</p> <p>②青少年意見発表会や、大崎タウンミーティングなどの地域の行事に、積極的に参加し、地域と連携していく。行事等をおして生徒のコミュニケーション力や、ソーシャルスキルの向上ができるようにしていく。</p> <p>③探究の時間を「さくらクエスト」と題して、探究活動の中で段階的に進路意識の醸成を図り、進路目標達成を目指す態度を育てていく。</p> <p>④特別支援コーディネーターを1名から3名配置にすることで、生徒の情報共有をスムーズに行い、組織として連携して対応できるようにしていく。また、教育相談体制については、SC、SSWとの合同連絡会議を3回実施したり、ケース会議をすることができた。</p> <p>⑤文部科学省事業である「みやぎハイスクール・ネットワーク構築事業」が3年目を迎え、他校への授業配信を継続して実施し、課題等を洗い出していく。また、授業研究期間を利用し、職員の研修を実施する。</p> <p>⑥さくら通信（学校通信）の地域住民への全戸配布を継続して実施。さくらギャラリー（昇降口のホール）をコロナ禍前の活用状況に戻す。</p> <p>⑦各種行事において、生徒がより主体的に活躍できるよう環境整備を行い指導していく。また、「さくら文化講演会」や伝統文化に触れる行事など本物に触れる機会を通して、生徒の感情を豊かにし、心を育む取り組みを充実させる。</p> <p>⑧コロナ禍の影響で4年ぶりの再開となる「さくらチャレンジ講座（科目履修生）」を1年間適切に進めていく。科目履修生を受け入れる様々な企画を進めながら異世代間交流を通して、コミュニケーション力の向上やお互いを高めあえる環境を準備する。</p>
<p>成果</p>	<p>①学習指導要領に基づき「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、年2回授業研究のための研修会を開催した。検証と課題改善のためのワークショップでは、さらなる充実に向けた積極的な意見交換が見られた。生徒の授業評価は第1回目より2回目のほうが、肯定的評価が高くなった。引き続き個別最適な学びを実践し、授業力向上に取り組んでいく。</p> <p>②積極的に地域の行事に参加することで、本校生徒のがんばりなどを地域の方に知ってもらうことができた。また、参加した生徒は、自己肯定感の向上やコミュニケーション力の向上することができた。</p> <p>③さくらクエストを継続して行うことで、コミュニケーション力、ソーシャルスキル、進路意識の醸成をすることができた。インターンシップも再開することができた。今後は、さらに、生徒が社会で活躍できる力の向上も高められるようにしていきたい。</p> <p>④特別支援コーディネーターを3名配置したことにより、情報共有がスムーズになり、他年次でも生徒の状況を知った上で対応することができ、初動の対応を適切に行うことができた。教育相談体制については、合同連絡会議や、ケース会議を実施することで、多方面の意見を確認することができた。また、個別の支援が必要とされる生徒に対しては、教育相談・特別支援委員会等で指導方法を検討し、組織的に対応する体制作りに取り組むことができた。次年度から実施する「通級による指導」を活用して、生徒の困り感の解消を進めていきたい。</p> <p>⑤「みやぎハイスクール・ネットワーク構築事業」を通して、直接担当する教員のICT機器の操作スキルの向上はもとより、担当者以外の教員のICT機器操作に対する意識向上にも大きく貢献することになった。また、遠隔授業でも対話的な活動ができるように工夫を凝らし、成果を得ることができた。</p> <p>⑥さくら通信を継続的に発行することができた。さくらギャラリーについてもコロナ禍前の状況まで戻すことができた。本校のHPの更新を頻繁に行い、なるべく早く情報を提供できるようにした。今後も開かれた学校の充実を目指し、地域に本校の情報を継続的に発信していく。</p> <p>⑦体育祭、文化祭、球技大会等を通じて生徒が、主体的に活躍する場を設定し、周りの人たちと上手くコミュニケーションをとりながら進めていくことができ、自己肯定感を向上することができた。さくら文化講演会は、「本物に触れる」企画を今年度も実施することができた。外部の方にも参加していただくなど、地域との連携にも貢献することができた。</p> <p>⑧「さくらチャレンジ講座（科目履修生）」を再開し、1年間とおして滞りなく実施することができた。オープンキャンパスのお茶会への参加や、藍染め体験への参加など、異世代間での交流を通して、コミュニケーション力の向上等を行うことができた。また、社会人の方々の生涯学習の場として貢献することができた。</p>